

第2回 習志野市新庁舎建設基本構想策定市民委員会 議事録

開催日時：平成24年9月8日（土曜） 午後1時10分から午後4時

場 所：習志野市消防庁舎5階講堂

出席者：委員31名 事務局5名 支援事業者2名

■議事内容等

1. 開会

傍聴者3名（ほか議員1名）の入室を許可。

2. 事務局説明

議事録については、委員長の一任を承諾。また、資料及び議事録はHPに公開する。

3. ワークショップ作業

各4班に分かれてのワークショップ。各班で進行役、発表者の選任。

4. グループ発表

1班

- ・バリアフリーを万全にした庁舎にしたい。
- ・議場について固定式のイスではなく、可動式のイスとして、議会がないときには市民が活用できるような機能を持たせられないか。
- ・新庁舎は音楽が流れている、水の音が感じられる空間にしてはどうか。
- ・ロビーでミニコンサートが行えるような空間とすれば、市民に親しまれる庁舎になるのではないか。
- ・防災拠点としての機能も必要になる。
- ・太陽光発電についても必要ではないか。

2班

【現状の課題、問題点】

- ・現庁舎では、耐震性、機能の分散、面積の狭小といった課題がある。また、市役所の親しみやすさや市役所前の賑わいもあまりないように感じる。
- ・プライバシーに配慮した窓口や会議室の不足も課題として挙げられる。
- ・情報化に対応しきれていない部分がある。
- ・議場に入るときにセキュリティチェック（氏名、住所、電話番号の記載）が必要である。もう少し開かれた議場でもよいのではないか。

【基本理念、基本方針】

- ・一番の基本になるのは、市のアイデンティティ（歴史等）だと考えており、そこから4本の柱に分けて考えている。
- ・1番目は、情報化に対応できる庁舎。簡易な手続き等は自宅でもできるようになる時代がくるのではないか。
- ・2番目は、防災拠点となる庁舎。海拔10mくらいで立地的にも適合しているのではないか。
- ・3番目は、市民活動の拠点となる庁舎。若い市民や子育て世代をひきつけ、親しみやすく、安心、安全な市庁舎。ユニバーサルデザインについては当然満足するべき。

- ・ 4 番目は、自然エネルギーの活用。

【求められる役割】

- ・ 議場については、稼働日数や議員数を考慮しても多目的に活用できるようにするほうがよい。
- ・ 文化活動や災害時の広場としての多目的広場が必要ではないか。
- ・ 教育委員会側の段差を利用した地下駐車場は考えられないか。
- ・ プライバシーを考慮した面談室や空間も必要。
- ・ ボランティア活動やNPO活動の拠点となる場所。
- ・ ラウンジや食堂、レストラン等の市民が集える場所。
- ・ エコを発信する場所（太陽光発電、風力発電、地熱利用、緑地、池、市庁舎に自分の木を植える等）
- ・ 情報化の中で、わからない、使えないという人がいなくなるような、みんなが利用できるサービスが必要。
- ・ 防災無線は聞こえにくいため、ミニFM局のような機能を持たせてはどうか。

3班

- ・ 3班は、市民の経済負担を軽減してほしいという視点から夢を語るようにした。そのため、大きすぎる、立派過ぎる庁舎にはしないでほしい。また、無駄なものも必要ない。
- ・ 若者は滅多に市庁舎には行かないが、新庁舎は市民が集う場所になるのか。
- ・ 庁舎には防災拠点（防災指令）としての機能は必要と考えるが、備蓄倉庫等については、他の場所でのよいのではないか。
- ・ 窓口機能については、駅のそばにあったほうが高齢者は利用しやすいのではないか。分散化も悪いことばかりではない。
- ・ 新庁舎に求められる絶対必要な機能について十分検討するべきと考える。
- ・ 現庁舎は高齢者に不親切で、わかりにくく、建物が暗く親しみにくい。また、市民の立場に立っての動線計画がなされていない。
- ・ エコロジーについてどの程度追求するかも予算を考慮して考えていきたい。
- ・ 職員の職場スペースについても議論する必要がある。
- ・ 食堂を作ったら市民が利用するのか、ホールを作ったら市民が集まるのか等を考える必要がある。
- ・ 駐車場についても少し広く感じられる。
- ・ 市庁舎はなるべくコンパクトに市の主な機能を持たせるのがよいのではないか。

4班

- ・ 市民に親しまれる市庁舎にしたい。狭く感じない、ゆったりとした空間にしたい。
- ・ 窓口については、効率化を図りワンストップサービスとしてはどうか。
- ・ 市長室や議会室をガラス張りとし開放的にすることで、市民に開かれた市庁舎になるのではないか。
- ・ 耐震性、耐火性の機能を持たせ、市民の安全・安心な暮らしを支える拠点。
- ・ 防災時には拠点としての機能を持たせる。自家発電設備。
- ・ 施設については、持続可能なフレキシブルなスペースも大事ではないか。
- ・ 分散している機能については、整理をして統合することが大事ではないか。
- ・ 太陽光発電や風力発電等自然エネルギーを活用したエコ庁舎の機能も必要。

- ・高齢者や視覚障害者、外国の方に優しいユニバーサルデザイン。
- ・市民に親しまれる庁舎（ミーティングスペースや市民食堂、交流スペース、憩いの場）
- ・現庁舎は交通の便が悪く、敷地の高低差がある。
- ・職員のワークスペースが市民から見てもあまりよいイメージではない。収納スペースを確保するとともに、省スペース化、ペーパーレス化等効率的なスペースのあり方を考える必要がある。
- ・情報化に対応する設備を充実させる。
- ・駐車場、駐輪場、水廻りについてはバリアフリーとする必要がある。
- ・市としてファシリティマネージャーを配置し、維持管理する体制を組織的に整えることも考えられる。
- ・新庁舎は無駄のない動線計画とする。

5.講評、まとめ

- ・習志野市民の力にはものすごく大きな可能性があると感じている。
- ・3.11以降、多くの自治体で防災拠点としての市庁舎が必要だと感じ、庁舎の建て替えが計画されるようになってきている。
- ・市庁舎の面積については、書類関係のデータ化やフリーアドレス化等にする事で、省スペース化を図れる。
- ・1階のスペースを待合室とし、2階以上の階を執務スペースにすることで、1階部分を様々なイベントで活用できるため市庁舎の稼働率を上げることができる。
- ・食堂やレストランが（ドイツの市役所では地下にビアホール、レストランがある）があれば市民のコミュニケーションもより図れるのではないかと。
- ・若者を市役所に呼び込むために、演奏や発表のできる場所（中高生バンドやオヤジバンド、ママさんコーラス等）があってもよいのではないかと。
- ・その他、エコやみどり、広場についても工夫していけば、面白いことができると考えている。
- ・野菜工場を活用すれば地元の人が野菜を育て、そこで育った野菜を地元の人が食すというようなこともできる。習志野でも可能性はあるのではないかと。
- ・低層化、高層化についても耐震性の問題を考慮し、イベントスペース、食堂、レストラン等をうまく組み合わせることで、より面白い市役所の構想ができるのではないかと。

6.事務局連絡、質疑等

- ・意見、質疑等は電話及びメールにてお願いしたい。9月10日（月）からは職場がクレストホテルの2階に移転するため、委員の皆様にご不便をおかけする。（事務局）
- ・資料番号のほかに第〇回委員会と記載してほしい。（委員）
- ・急用で遅れる場合の連絡体制について検討してほしい。（委員）
→事務局で検討する。（事務局）

7.今後のスケジュール

- ・第3回市民委員会
平成24年9月29日（土曜日）午後1時10分から午後4時
習志野市消防庁舎5階講堂